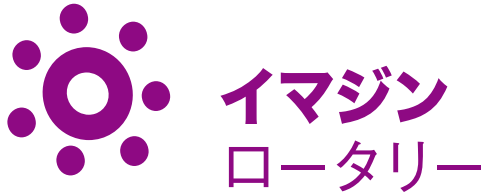


創立 1986 年

2022～2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー
創造しよう、これからのクラブ』



会長 高 畠 裕
幹事 車 田 裕 介



2022-23年度国際ロータリーテーマ

第1737回例会

令和 4 年 12 月 1 日 (12:30～13:30)



新地山



黒羽神社



深仁井田 国津神社



坂口 鹿嶋神社

▶第1737回例会出席状況 (R4年12月1日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	52名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	66名
Ⓒ ①の出席者数	18名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	7名
Ⓕ ②の出席者数	12名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	37名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	59
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	62.7%

▶例会日：第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

高島裕会長



皆様、こんにちは。今日から12月ということで、本当にもう一年が過ぎるのがあっという間というふうな感じしております。また、今日は本当に久しぶりの移動例会ということで、歴史文化研究愛好会の成井さん、そして関谷さん、本当に段取りいろいろありがとうございます。また高久様、今日はお忙しい中ありがとうございます。ということで、久しぶりの移動例会ということで、なかなかこれだけの人が集まっていたということも、非常にありがたいと感じております。わたくし事にはなりますが昨日、二本松ロータリークラブのほうに仕事が休みだったということもあったのと、あとは二本松ロータリークラブの野球クラブの渡辺忍さんという方。先日、青木さんからご紹介いただきまして、その流れで何故か昨日メーキャップのほうに行っていました。なかなか素晴らしいクラブで間もなく60年を迎えるというようなクラブでしたが、普段は商工会議所で会議をしてお弁当を食べて例会をしているそうです。昨日は、たまたま駅前の「アーバンホテル」というホテルで、お酒が出る懇親会も付いた例会だったんですが、私も妻も二人で参加したんですが、非常に参考になる、そして接待がすごいありがたいようなクラブでありました。また近々、二本松ロータリークラブさんのほうも白河西のほうに訪問してくれるということでお話をいただきましたので、是非その際は歓迎をしていただきたいと思っております。今日は例会が始まる前に三か所ほど狛犬のほう拝見させていただいて、高久様より丁寧な説明をいただきました。普段は何気なく通り過ぎてるような遺産であったんですが、改めてこうやってお話聞くと興味が出てくる、そういった話でございます。なかなかどういった所にどういったものがあるのかわからなかったんですが、県南地方としてもこういった狛犬ツアーというようなマップもありますし、これから我々もそういった部分で地元の歴史を少しでも理解しながら深めていけるように頑張っていきたいなと思っております。また、来週はクリスマス例会となっております。親睦委員会の皆さんが本当に心を込めて手作りで仕上げてくださいますので、是非一人でも多くの皆様に参加していただけることをお願いしたいと思います。本日は寒い中、そして移動例会という中でありながらも、皆さんに数多く出席していただきまして心より感謝申し上げます。会長の時間、以上とさせていただきます。本日もよろしくお祈りします。

■幹事報告

車田裕介幹事

- 米山記念奨学会理事長 若林紀夫、事務局長 柚木裕子：米山功労クラブ感謝状送付の件
- 国際ロータリー日本事務局：財団室NEWS 2022年12月号
- ガバナー事務所 事務局 佐藤直子：地区・クラブ規定委員会セミナー 後日配布
- 福島民友新聞社 代表取締役社長 中川俊哉：年賀新年のご挨拶新聞広告ご協賛のお願い
- 2021-22年度ガバナー 志賀利彦：「地区要覧」の送付について
- 地区大会実行委員長 星富士雄、地区大会表彰・救護委員会委員長 小池久昭：2022-23年度地区大会において登壇された方の賞状等の送付について
- ロータリーデータサービス部：2023年1月クラブ請求書の作成にあたってのお願い
- 株式会社エス・プランナー：第44回バギオ訪問交流の旅募集要項

高島裕会長

今、幹事報告のほうでもありましたように、こちら過日喜多方で行われました地区大会のほうで、我がクラブがマイロータリー登録推進賞、最優秀賞ということで千人規模の会員がいる中、壇上で受け取ってきた賞でございます。本当に会員の皆さん、いろいろとご協力いただきましてありがとうございました。



■本日のプログラム

移動例会

○歴史文化研究愛好会

関谷亮一会長



皆さん、こんにちは。歴史文化研究愛好会で兼ねてから外に出ていろいろと勉強する機会があったらなと、そんなふう感じておりました。この度、プログラム委員会の大変なご厚意によりまして、歴史文化愛好会研究のほうでどうですかというご案内がございまして、ではということで成井会員が非常に狛犬についての造詣が深いということで、色々をお願いをしまして下準備をしていただきました。本日はこの移動例会を神宮寺さんの高久住職先生に色々現地までおいでいただいて説明もいただきました。更には、このお寺さんの境内において例会の席を設けていただいて、誠にありがとうございます。

ざいました。高久住職さんのほうから、ネットワークの事務局長という立場で本日ご講話をいただきますが、その前に成井会員のほうから高久先ご紹介をいただいて、早速卓話に入りたいと思います。

○講師紹介

成井正之会員



改めて、こんにちは。本日のご講演をいただきます高久先生を紹介いたします。本日の例会場であります神宮寺さんについてはちょっとお話をさせていただきます。先程の移動例会からでも少し話が出たのですが、神宮寺さんは奈良県桜井市長谷寺を総本山とする真言宗豊山派の寺院です。開山は養老元年、717年7月10日。徳一国師が常陸の国鹿島より鹿島大明神および別頭神宮寺を同時に移した際と伝えられております。本日の講師であります神宮寺の名誉住職高久真隆さんは、教職時代学校の先生もしておりました。県南地区の小学校の校長等を歴任しております。現在は、福島県地域創生総合支援事業であります福島県県南地方狛犬ネットワークの事務局長であります。今日は、狛犬についてこれから卓話をいただきたいと思っております。それでは、よろしくお願いたします。

○福島県県南地方狛犬ネットワーク事務局長

神宮寺名誉住職

高久真隆様



それでは、ただ今ご紹介をいただきました高久真隆と申します。どうぞよろしくお願いたします。それこそロータリークラブの皆さん、そうそうたるメンバーの中で、私のお話をさせていただくということで、大変おこがましいんですけども30分というお時間をいただきましたので、30分でお話を終わりにするようにしたいと思います。私ども、学校に勤めておりました時分、子供たちは大体45分授業です。もう45分でチャイムが鳴ったら、子供絶対落ち着きません。その時間ぴったし終わるのは、まあ優秀な先生です。今日も時間30分、ぴったし終わるように努めたいというふうに思っています。なのでこう無駄話なんかはしてる時間はないんですけども、ただ皆さんわざわざ狛犬見学、そして私どもの神宮寺のほうへおいでいただいて、本当に感謝申し上げたいと思っております。今、狛犬非常にブームになっておりまして、土日になると5~6組見学に来る方がおられるようになったわけでありまして。我々ネットワークとしても、せっかく先人が残してくれたこういう貴重な財産を、やはり守ってそして後世に伝えていく。そして、日本に広くこの情報発信をしていくというのが、我々の会のモットーであります。ロータリークラブというクラブのこと、私はあまりよく存じ上げてなかったものですから、インターネットでちょっと調べてみました。そうしましたら、なんと本当にロー

タリークラブのいわゆる行動目標、活動目標ということですかね。そういう信条とか理念みたいなものを考えてみると、仏教の考え方で非常にぴったりしてるんですね。私ども、大変驚きました。その仏教の考え方でいいますと、仏教のいわゆる布施の心と言うんですね。布施の心。そして、慈悲の心。そういういわゆる仏教的な考え方で非常に似ているなど考えまして、本当に皆さんの活動に対して敬意を表したいなというふうに思っております。多分、背景にあるのはシカゴで誕生したということだそうですね。背景にあるのはキリスト教の愛というそういう考え方が土台になってるんだろうなと思います。日本で活動されてる方は、仏教の考え方が基本になってるんですね。皆さん、多分活動されておられるのではないだろうか、本当に敬意を表したいなというふうに思います。震災の時に、私ども一体何をしたらいいんだろうかということ、本当に考えさせられました。あの時、そのお釈迦様の教えで、ジャータカといういわゆる童話で話をしながら人々を導くという、そういう話があります。そのお釈迦様のいわゆるこれはお経の中に書いてある事でありまして、オウムの火消しというのがあるんですね。ある動物が、みんな仲良く山の中で楽しく生活をしておりました。ところが、その山が火事にあってしまって、みんながその森から逃げなければいけない。そういう事態になったわけですね。そして、その時に一羽のオウムがやって来て川の所で自分の羽を濡らして、火事が盛んに燃えている所に自分の羽を濡らした雫を落としながらその火事を消そうとしていたそうなんです。ところが、それでは本当に焼け石に水なわけで、みんな仲間たちはそんな事してると焼け死んでしまうから逃げろ、と。でも、僕はこれをせざるを得ない、しないではいられないんだということなんです。多分、皆さんが活動されているそのいわゆる人道的な活動とか、社会への奉仕活動という、そういうやむにやまれぬ、しなくてはならないんだというそういう心から皆さんが活動されているんだろうなと思っております。まさに仏教でいうと。こんな話ばかりしてると本題の狛犬ですけども、ちょこっとだけ。せっかくお寺に来られたわけですから。こういう仏教的なその活動、考え方という無財の七施という、有名な話ですのでよく皆さんご存じだろうと思うんですね。お金をかけなくたって、いわゆる布施をすることができるということですね。今のお布施という、皆さん檀家



の方がお寺にあげていただくお布施と考えられているわけですが、これはもともとインドの言葉でダーナということなんです。ダーナというのは、思いやりということなんです。ですから、旦那さんというダンナサン語源というのは、このダーナだというわけですね。檀家さんとか旦那さんというのは、思いやりのある方をダンナサンというふうに言うわけでありまして、そういうその思いやりを表すのに決してお金をかける必要はないんだということを言ってるわけですね。これが**無財の七施**ということでありまして、①**眼施**(ゲンセ、ガンセ)ともいう、目で施しをする。優しい眼差しで見つめて差し上げる。これボランティアをする時も、救助活動なんかする時も、例えば介護をする時も、そういう事が大事で優しい眼差しで見つめてあげる。そして、いつでも常に穏やかな優しい顔であるということも、大事な布施の一つなんだというふうに言われています。②**和顔施**。学校の教員なんか、特にお母さんですね。子供たちはお母さんの顔をよく見ます。お母さんが穏やかな顔をしてると子供は安心。あと、担任の先生が厳しい顔してると子供たちも何となく緊張している。先生が穏やかで朗らかに笑ってたりする時、子供たちが非常にリラックスをする。こういう時間を沢山持つというのは大事なことでありますね。③**愛語施**というのは優しい言葉がけをするということですね。これは大事なことで、私の家内がちょっと大病をしまして、その介護状態に入って最初介護3だったんですが、だんだん回復してきてまして、1の段階まで良くなってきております。でも、つくづく考えたのは、私どもも本当にやっぱり優しさで優しい言葉がけをしながら、こういう介護をしていくというのは非常に大事な事なんだというふうに、自分で体現としてこの実感をしたところでありまして。④**身施**、これを体で奉仕活動をするとかですね。あと心、⑤**心施**。そして⑥**床座施**というのは席を譲るということですよ。席を譲る、これも大事ないわゆる布施業の一つであります。そして、⑦**房舎施**というのは宿を貸して差し上げる。昔は旅人が皆歩いて旅をしたわけですよ。そういうところで、まずは宿を貸すということも大事ないわゆる布施業の一つなんだというふうに言われているわけでありまして、皆さんのその活動を見ながら考えながら、仏教ではこういうふうなその考え方でやることが、この世の中の幸せのためには非常に大事な事なんだということをつくづく感じさせられまし



た。ひとつ余分なことでもありますけども、我々仏の四摂という言葉があるんですが、仏に代わって我々がする実践項目というのが4つあると言われております。四摂の摂というのは摂政の政ですね。政治を代わって行うというのが摂政ですよ。四摂、仏の代わりに代わって行う4つの実践方法というのがありまして、これの一番目がいわゆるさっき申し上げましたように布施ということですね。思いやりということでありました。そして、次に愛語という優しいこと、同じ事を言えますね。先程の無財七施と同じようなこと、愛語、優しい言葉がけをする。そして、同事という言葉があるんですね、同事。これはですね、寄り添うということです。介護とか震災に遭った方のボランティアなんかもやっぱりそうですね。被災者に寄り添うということは、非常に大事になってくるわけでありまして。そして、皆さんも基本的な考え方だろうと思っておりますけども、この利他という考え方ですね。他の人のために行うということ。こういう事が皆さんの行動の基本的な考え方になっているのではないだろうかというふうに思っております。約10分経過をいたしましたので、続きまして狛犬とはというお話、本題に入りたいというふうに思っています。神社に行きますと、ほとんどの神社が狛犬が建っております。これ色々ないわゆる語源として、高麗から来た高麗犬(コウライイヌ)として高麗犬(コマイヌ)というふうに言うんだという説もあります。いろんな説あります。起源はエジプトのスフィンクスあたりであろうというふうに言われているわけですが、それがインドで仏様をお守りするためにライオンの像をお祀りしたわけですね。お守りをするための獣として、そのライオンを据え付けた。これがいわゆる狛犬の起源であるというふうに言われています。そして、それが仏教の伝来と共に日本に伝わってきました。最初は、ですからお寺に狛犬があるんです



ね。今でも古いお寺には、広隆寺とかそういう所には狛犬があります。それがやがて宮中に取り入れられるようになってきました。宮中の御簾と言って、あれが垂れてますね。布を垂らして、昔で言うと部屋の周りに布を垂らすくらいだったと思うのね。それを押さえるために、ライオンの像を置いたらしいんですね。そして、それがやがていわゆる宮中で使われてたわけがありますので、神社のほうに狛犬をお祀りするようになりました。鎌倉時代あたりから仏教では門の所に金剛力士像ですね。金剛力士像をお祀りする。そして、いわゆるあれも守護をするためですね。悪霊を境内の中に入れないようにするためですね。それと同じように神社のほうでも、神様の神域を守るための守護獣として狛犬を守ったということなんです。よくあるしめ縄ありますよね。しめ縄というの、ここからは神域ですので悪霊は入ってはいけませんっていうその結果なんですね。ですから、それと同じようにここからはもう悪霊は入ってはいけないという、そういう事で神社を神様をお守りするのための守護獣として祀られたわけでありまして。こういうふう、どこの神社でも狛犬がお祀りされるようになったのは、大体江戸時代頃からだろうというふう言われているわけですね。特に、関西を中心に狛犬というものが普及し始まったわけですね。江戸時代になると、今度は割合江戸というのは都から離れたたものから、自由な形の狛犬というのが誕生してくるんです。ですから、今でも関西はきちんとした蹲踞型。江戸以北は、獅子山を上るような形とか、中には獅子を谷落としてですね。子供を突き落とした、そういうような狛犬もあるんですね。そして、福島県南地方の狛犬のまず第一の特徴が、この飛んでる姿だと思ふんですね。福島県、この県南地方というのは狛犬の三大傑作地の一つであるというふう言われているわけですね。ひとつは出雲地方ですね。そして、もう一つは愛知県の岡崎地方。こういうのは出雲型狛犬とか、岡崎型狛犬とかそういう言い方があるので、福島県の県南地方というのは福島型狛犬というふうにも言っているくらいに、非常に傑作の多い場所として脚光を浴びるようになってきたわけですね。この前高遠に行ってまいりました。長野県伊那市の高遠ですね。福島県にその狛犬が栄えたそのまず第一の理由というのは、高遠石工にこの源流があるわけですね。高遠石工というのは、高遠藩というのは長野県の南部でありますけれども、非常にその当時貧しい藩だったん

です。三万三千石くらいしかなかったということなんです。特に山間部でありますので、米の取れ高も非常に少なかったんです。それで、次男三男以降は石工を養成して、その石工を全国に派遣をして旅石工として全国に出稼ぎに行ったわけですね。そしてそれでいわゆる運上金を納めさせて、そして藩の財政の足しにしたということ。この藩の財政の足しになるというのは、かなりの部分、半分くらいはこの石工の収入が藩の財政になってたんだと言われるくらい、その何千人という人が全国に旅して旅稼ぎをしてたわけですね。遠くは青森県まで。そして、向こうに行きますと山口県辺りまで旅して出稼ぎに行ったというんですね。その中の高遠藩の入野谷郷浦という地域があるんですね。これが物凄い山の中なんです。ここに行ったんですけども、山の奥でなくて浦ですね。オクダイという所なんですけど、山のあんな千メートルくらいの高所なんですけども、浦という地名が付いているんですね。何で浦なのかというと、壇ノ浦の浦だと言うんですね。そこの小松性というのは、平重盛ですね、長男ね。平清盛の長男の重盛を小松殿と言ったらしいんですね。ですから、壇ノ浦で滅んだその平家の一族が落ち延びて、小松家というのはその重盛の一族がですね、その長野県に落ち延びてその浦という所に住み着いたわけですね。その子孫が小松家であって、その小松利平という人は全国を旅してる間に富貴作に来たんです。高遠石工の作品というのは、白河市内でも沢山残されております。関川寺さんに残っておりますし、鹿島神社の右側に最勝寺というお寺がありますね。いわゆるここでいう神宮寺みたいなものになります。あそこに阿弥陀様かな、仏像があるんですが信州高遠石工なのがしというふう書いてあるんですね。江戸時代からもうこの辺には大勢の石工が旅稼ぎとして来ているわけでありまして。その中の小松利平という人が、たまたま浅川町の富貴作という所でこの富貴作石というものに出会ったわけですね。非常に彫刻に向いている。そして、風化しにくい。そういう特徴がある石に出会って、そこに定住をするわけですね。そして自分は帰らないわけですね、向こうにですね。結局は向こうでいうと五人組制度なんかで五人組仲間が罰せられるわけですね。だから、もう逃げてきてひっそりと生活するしかないわけですね。石切目付という人を全国に派遣して、そういうのを取り締まったわけですね。いわゆるその脱藩者を連れ戻すという役目の人がいたんです



ね。利平という人は富貴作に定住をして、ひっそりと石の仕事をしていたんですけども、その作品に絶対名前を彫らなかつたんですね。ですから、利平作であろうと思われるものでも、本当にこれは謎だらけなんです。例えば、都々古別神社のあれも昔は利平作であるというふうに言われていたんですね。ところが、最近になって古文書ですね。八槻さんという方で、その当時の天保年間の神主さんの日記の中に、その富貴作の留蔵という人に依頼をしたというこれが出てきたらしいんですね。それで、もしかすると利平のではないかもしれないという可能性も出てきてるんです。まだこれは確定してないもので。その留蔵というのはいろいろ人別帳で調べてみると、その当時子供だったということなんですよね。だからそういう細工をしたものが、利平を守るために細工をしたものが、そういうふうにして謎だらけなんです。利平に関しては。これからだんだん明らかにされていくのではないかというふうに思いますけども。その代わりに、自分の作品に名前を彫らない代わりに弟子を養成したんですね。この小松寅吉、この神社のあれを掘った寅吉という人は、小松家に丁稚奉公に入ります。非常に卓越した技術を身に着けているわけですね。そして二十歳の頃、小松家の養子になります。ところが養子に入るにしても、利平の養子にではなくて、利平の子供の養子にするわけですね。利平の子供と寅吉というのは8歳しか年が違わない。それでも自分の子供に養子を取らせたわけですね。これは戸籍に自分の名前が載らないようにと、そういう配慮のもとであろうというふうに言われてるわけですが、この寅吉が非常に優秀な技術を身に着けて、そして今度は沢山の狛犬を作ったわけです。これから行く中島が狛犬では最初の、そして多分日本でも最初の飛んでいる姿の狛犬ではないのかなというふうに思います。これについては、まだ他に発見される可能性もあるわけですね。江戸時代あたりの飛んでいる姿の狛犬。だから日本で最初の飛翔獅子だなんていうふうに言い切ることはできないんですが、多分今のところ見つかってないんですね。いろいろな各地の狛犬集なんか見させていただいても、ほとんど蹲踞の形です。そういう事で、小松寅吉が立派に成長して沢山の傑作を残す。そして、弟子のその弟子の小林和乎という人。この人はやっぱり丁稚に入ってですね、これは沢井の人ですね。沢井の町の中の一番外れの今の家がありますのでね。その沢井の小林和乎という人がまたこれ

大変な技能を身につけて、この3人、三代によって作られた狛犬なんですね。沢山ある、そういう所から福島県内には傑作が多いと言われていたと思うんですけども、それに触発された石工が沢山いる、白河市内にもいます。例えば、今でも三国石屋っていうのありますよね。あそこの先祖も石を彫ってますし、大高さんも彫っておりますし、あとなんとといってもこれから話題になってくるだろうと思われるのは野田平業という横町に石屋の工房を開いてたというふうにいわれる。厚生病院のあたりですね。この人の作品、ものすごい数を残しております。福島のほうにも。昔、浪江辺りにもね、津波で流されてしまいましたけど。あと、茨城、栃木辺りにも沢山の作品を残しております。そういうわけで、小松工房三代、それに触発された地元の石屋さんが沢山その狛犬を残しておりますのでね、この白河地方、そして特に県南地方には狛犬の傑作が全国的にも多いということで、今非常に脚光を浴びてくるようになってきております。どうぞこれを機会には是非興味お持ちの方は、これからマップをもとに歩いていただければ我々会としても大変ありがたいなというふうに。こちらのほうに来た時には、是非こちらのほうにもお立ち寄りいただきたいと思っております。色々狛犬談義なんかもしながらできたらいいなというふうに思っております。以上で時間でたいした内容のある話はできませんでしたが、まず皆様のこれからのご活躍を本当に心よりご祈念申し上げたいというふうに思っております。今後どうぞよろしくお願いいたします。

○会長謝辞

高島裕会長

高久様、本日は貴重なお話ありがとうございました。そういった素晴らしいものが県南地方に多くあるということで、なるべく文化財の指定になれるよう我々も取り組んでまいりたいと思っておりますので、今後ともご指導のほうよろしくお願ひしたいと思います。また、高久様におかれましては我々ロータリーの事を調べていただきましてありがとうございます。仏教の道とロータリーの活動は似ているところが沢山あるということで、我々今後とも利他の気持ちで人のために尽くせるよう頑張っていきたいと思っております。本当に今日はありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。



記念品贈呈と記念写真撮影

